

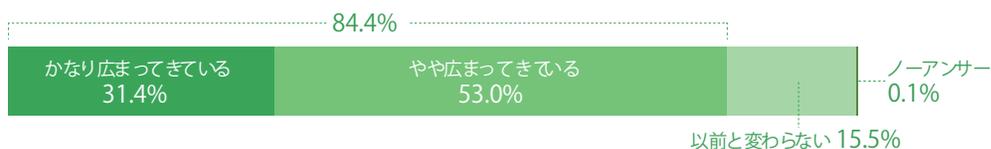
日本テトラパックのベルマーク運動への積極的な取り組み、ありがとうございます。

2016年12月に実施した「リサイクル推進ありがとうアンケート」に1700を超える参加団体からのご回答をいただきました。テトラパックのベルマーク運動開始からもうすぐ6年となりますが、参加団体数は5,700(2016年12月現在)を超え、多くの皆様からベルマーク運動を通じての社会貢献と、紙容器のリサイクル推進にご協力をいただいています。紙容器のリサイクルは循環型社会形成の一助となります。引き続きご協力をお願いします。

▶ PTAの集まりや保護者の間で、環境やリサイクルが話題になることが増えましたか。



▶ 保護者の間で、「開いて、洗って、乾かす」ことでアルミ付き紙容器がリサイクルできるという認識が広まってきていると思いますか。



▶ テトラパックのベルマーク運動に参加していない学校や園に参加をすすめたいと思いますか。



さまざまな気付きや行動は大人だけでなく、子どものあいだにも広がっています。

(フリーコメントから抜粋)

公民館だよりにテトラパックの収集(ベルマーク運動)の記事を掲載したら、地域の方が公民館窓口へ持参してくださる様になった

パック入りジュース等をゴミとして見るのではなく、大切な資源として見られるようになってきた

幼稚園児なので、環境のことなどは理解していないようですが、今後、「自分達が幼稚園の時にやってたことは環境にやさしいことだったんだ…」と気付き、つながっていてほしいと思っています

保護者や子ども達の中に、環境に関する関心や、環境保護に関する具体的な取り組みも年々増えていると感じる

PTAの集まりのときに、一度洗い方を説明したら、そこから回収率がグンと上がった

牛乳パックは開いて回収するものという認識が1年生から植え付けられるので、持続可能な教育としてよいと思う

給食試食会で保護者にも、子どもと同じ体験してもらうことで、こうした取組のよさや意義を実感してもらうことができた

環境問題についても子供と話す事が多くなり、自分に出来る事を「我が家」で行ってます。小さな事ですが続けて行きたいと思えます

自分が給食で飲んだ牛乳のパックがリサイクルされていること、どのようにリサイクルされるのか学べた。いろいろな人の手をかりて、リサイクルがすすめられていることがわかった

ポイントを活用し、地域の福祉団体に車いすを寄贈したり、学校で活用できるものを購入したりすることで目的意識をもって取り組めるようになってきていると思う

親が意識してリサイクルの行動を起こすことで、子ども達は当然と認めて育っていく

長い間続けてきたので、洗って乾かすことに抵抗がないと思う。点数の積み重ねでストープを購入することができ、有用感をもつことができた

職場でテトラパック飲料などをふだんから飲んでいる方は、同僚にも協力いただいで集めてくださる方がずいぶん増えた

回収の常設場所を設け、学校行事や授業参観などで回収を知ってもらい、毎年、回収量が増えている